

春風秋霜

3月号

平成28年3月1日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一喬

1 人事異動を控えて

今月中旬には異動の内申があります。異動は教員にとって自分自身を振り返るいい機会です。新しい学校では、校長も学校経営方針も違います。新しい組織の中で働くことになり、新たな気持ちで取り組むことが求められます。

異動は、静西教育事務所管内の過員・欠員状況や生活転などが優先され、その後に校内体制や個人の希望を考慮した異動作業が行われます。そのため、すべての職員の異動希望が叶えられるわけではありません。時には、まったく経験のない行政職や校種変更をはじめ、遠隔地への異動をお願いする場合がありますから、ご理解をお願いいたします。

教職員は、経験を増すにつれ、校内外で求められるものが多くなります。異動の有無に関わらず、これまでと同じという意識ではなく、ライフステージに合わせた目標をもっていたきたいと思います。取りあえずは今後の10年を見通し、どんな生活設計をするか考えて欲しいと思います。50代の教職員は、退職後の生活についても視野に入れることが大切だと思います。

今年度をもって退職なさる皆様には、島田市の教育に長く貢献していただいたことに心から感謝申し上げます。教職員は退職しても地域からその能力を期待されます。今後の地域貢献や学校へのサポーターとしての活躍を期待しています。

2 放課後児童クラブ待機児童の急増について

本年度当初に4人だった待機児童が、来年度は125人に急増しています。子育てのしやすい街づくりを目指している島田市としては、この状況をできるだけ早期に解消しようと努めています。

文部科学省が学校施設の積極的な活用を認めているため、今後、学校教育以外での校舎活用が求められ、放課後児童クラブの校舎内設置も避けられない状況にあります。教育委員会としては、学校の負担軽減を考える中で、この問題に対応していきたいと思います。ご理解をよろしくお願いします。

3 笑顔の連鎖について

ラジオ番組を聴いていると、笑顔の連鎖という話をしていました。職場や組織内に笑顔の人がいると、笑顔の人が増え、人間関係の問題が減少するという話でした。一方、不機嫌も連鎖し、職場や組織の雰囲気が悪くなってしまうと言っていました。

島二中の生徒指導が大変だった時、一番苦勞しているはずの学年部が、一番笑い声の多い集団であり、笑いによって困難を吹き飛ばしていました。この雰囲気に救われた教職員は、私をはじめ多かったと思います。

不満ばかり言う人が組織にいと、その発言に同調する人が出ることは事実だと思います。同調なくても、不満を聞くと負の気持ちになってしまいます。解決策に結びつかない不満を言うより、笑いの中で困難に立ち向かう職員集団でありたいものです。

4 普段の表れが本当の力

2月中旬に、島田第二小学校茶道クラブの講師の方からお手紙をいただきました。その手紙には、「はじめて伺ってドキドキしていた時だったので、子供たちの『こんにちは』のあいさつがとてうれしかった。」と書かれていました。

島二小の子供たちの素晴らしいところは、教師がいなくても、初めての訪問者に挨拶しているところです。これは、以前、大津小学校の人権教育研究会において、『校外での姿が本物』という校長の挨拶につながると思いました。教育に携わる者は、本物になるまで子供の心を育てたいものです。

5 ビジョンを大切に

E ジャーナルに学校のビジョンという記事が載っていました。学校の3年後の将来像（ビジョン）に向け、教職員各自が策を考え、実行に移していくというものです。各学校では、来年度の教育課程もほぼ固まっていると思います。これまでに、様々な話し合いの中で明確になった学校のビジョンや求める子供像をいつも意識した教育課程の実施に努めていただきたいと思います。

一方、日々の多忙感のなかで、教科書を教えることだけに追われ、心のゆとりを無くさないことも大切です。また、職場内に『笑顔・やりがい・仲間』が意識されることが大切だと思います。

6 諏訪原城跡にカモシカ出現！

諏訪原城は、NHKの連続ドラマ真田丸につながるという講演会もあり、興味を持っていただいた方は多いと思いますが、カモシカも住み着いているということも分かりました。興味のある方は、午前中の静かな時間に訪れてみてはいかがでしょうか。



肘かけ椅子

「わたしの拍手が大きなわけ」

南條 隆彦 社会教育課長

わたしは拍手が大きいです。

集会のとき拍手すると、たいてい何人か「誰だ」的に振り向くので、目立つ程度に大きいんだと思います。はずかしいので、あまり大きくしないように気をつけてたたいも振り向かれることがあるので、もうあきらめて容赦なく拍手しています。たぶん音色も目立つんだと思います。

拍手が大きくなったのにはきっかけがあります。中学2年か3年の時、音楽教室だと思えますが、市民会館でプロのフルオーケストラコンサートのアンコール。隣にいらした担任の萩原先生が「演奏家は大きな拍手がなにより嬉しい。欧米の人はそれがわかっているから、大きな拍手をするんだ。」と言って、吹奏楽部員だったわたしに、驚くほど大きくていい音が出る拍手を教えてくださいました。アンコールは2回してもいいこともこの時知りました。疲れているのにいいのかなあと、当時トランペットを吹く大変さを知ったわたしはつまらぬ心配をしながら、自分自身すごく気持ちのいい拍手でアンコールを2回したのでした。

以来、仲間とともにステージで聴衆から受ける拍手の快感が病みつきになり、気がついたら40年以上もラップを吹きながら、大きな拍手をしています。

拍手は、チンパンジーも自身の歓喜（共感）や他者への賛意を示すために行う、両手が高度化した霊長類の原初的快感行動と言われ、自己の肯定感、有用感を高めるのにたいへん効果的な行動なのでしょう。

とにかく、受けても贈っても、すごく気持ちいいですから。

生涯学習事業では、たくさんの方々に拍手のシャワーを浴びていただけるよう、人生のあらゆるシーンで素敵なステージを演出していきたいと思えます。

今日、スポットライトはあなたに当たります。